



大平中央小で開かれた出前講座

プログラミング 楽しさ伝え50回

栃木工業高 市内小中校で出前講座

【栃木】栃木工業高の生徒によるプログラミングの出前講座がこのほど、大平中央小で開かれた。講座は市内の小中学校で開いており、通算50回目を迎えた。

教材は同高校の生徒が開発、

商品化した子ども向け教育用パソコンの組み立てキット「SkyBerryJAM」(スカイベリージャム)。6年生の児童34人が参加し、「WAIT」「RUN」などのプログラム言語を打ち込んで発光ダイオード(LED)を点灯させる仕組みを学んだ。

講座は2016年、キットの一般販売に向けた市場調査を兼ねて開始。プログラミングの楽しさを伝えたいと、翌年の販売開始以降も活動を続けている。

6年東原誠弥君(11)は「信号機もプログラミングで動いていると知った。優しく教えてくれて楽しかった」と話した。電子情報科3年今井稜さん(17)は「授業は毎回よりよくなるよう改善している。後輩には100回、200回と続けてほしい」と期待した。

(磯真奈美)